

平成30年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立神野小学校

4月に文部科学省による全国学力・学習状況調査を実施しました。この調査は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、改善を図ることが目的です。学校においては、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることやこれらの取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善を確立することを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

平成30年4月17日（火）

■ 調査の対象学年

小学校6年生

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 〔国語A、算数A、理科〕	主として「活用」に関する問題 〔国語B、算数B、理科〕
<ul style="list-style-type: none">身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など	<ul style="list-style-type: none">知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査	指導方法に関する取り組みや人的・物的な教育条件の整備の状況、児童生徒の体力・運動能力の全体的な状況等に関する調査

■ 調査結果及び考察について

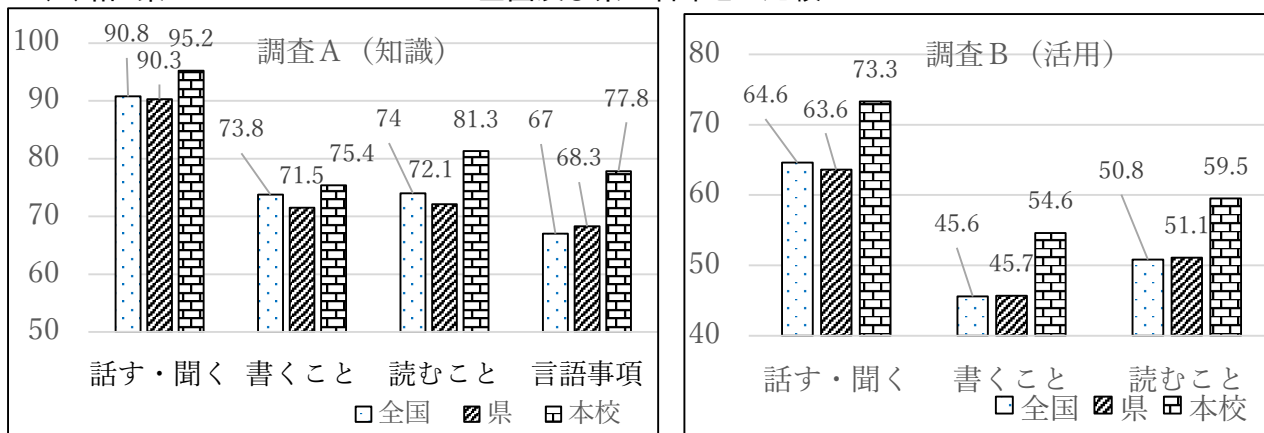
全国学力・学習状況調査は小学6年生（中学3年生）と限られた学年が対象であり、教科は国語、算数（数学）、理科です。さらに、出題は各教科の限られた分野（問題）です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご理解の上、ご覧ください。

■ 調査結果及び考察

1 国語

(1) 結果

全国及び県正答率との比較



調査A、調査B共に全ての領域で本校の正答率が全国平均を上回っています。調査Bの「書くこと」の領域は全国平均を9ポイント上回っていました。今後もそれぞれの領域で求められる力を意識した授業を日常的に行うとともに、計画的な家庭学習や読書活動を奨励していきます。

(2) 成果と課題

話す・聞く

・どの問題においても、全国平均、県平均を上回っていました。「話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる」記述式の問題は他の問題に比べて正答率が低くなっていました。

書く

・どの問題においても、全国平均、県平均を上回っているものの、「目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして詳しく書く」問題の正答率は、低いものでした。読むことと関連させて書く活動に力を入れていきます。

読む

・「登場人物の心情について情景描写を基に捉える」問題においては、全国平均、県平均を10ポイント以上上回っていましたが、「目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読む」問題は、全国平均、県平均をわずかに上回っているという結果でした。文章全体の意味や要旨をおおまかに捉えるとともに、幅広い分野の本に慣れ親しむように指導していきます。

言語事項

・すべての問題で全国平均、県平均を上回っていました。「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」問題に比べると、「文の中における主語や述語との関係などに注意して文を正しく書く」問題の正答率が低いという結果でした。学習した漢字、慣用句、敬語などを使って書く活動を重視していきます。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 他の領域に比べて、書く力を更に育む必要があります。読むことと書くことを関連させた学習を重視し、読み取ったことを基に話し合ったり、話し合ったことを基に書いたりする活動に力を入れていきます。
- 言語事項で学んだことを書く活動に生かすという意識を児童にも持たせたいと考えています。3行日記等日々の書く活動においても、学習した漢字を使ったり、主語述語の関係を考えさせたりするようにしていきます。

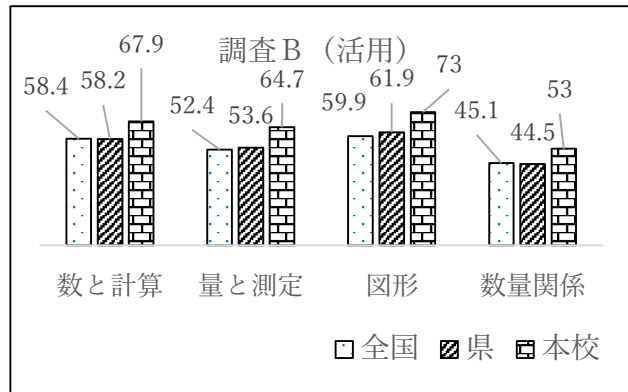
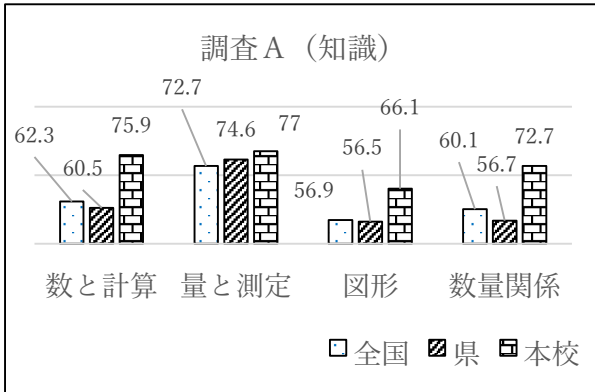
【ご家庭では】

- 音読については、毎日聞いていただくようお願いします。文章を読み、要点や意図を捉えることは、国語科だけでなく全ての教科の学力向上につながります。
- 夕食の前後など短い時間でも、本を読むように声を掛けてください。さまざまなジャンルの本を手にとるとともに、読書の習慣を身に付けさせたいと思います。
- お子さんが語句の意味を尋ねた際は、辞書などで一緒に調べていただき、その場で言葉の意味を調べる習慣を身に付けさせるようにしてください。

2 算数

(1) 結果

全国及び県正答率との比較



今年度も調査A, 調査Bとも全ての領域で正答率が全国平均を上回っています。本校では全学年を通して統一した学習過程で授業を行い、基礎的・基本的な学力の定着に努めています。また、「算数タイム」や本校独自の「そろばんタイム」(中学年)などを実施しています。このような取組みが結果に表れていると考えられます。

(2) 成果と課題

数と計算

・小数の数量関係を数直線に表す問題では、正答率が全国平均を大きく(約 20 ポイント)上回っていました。数直線で数量関係をとらえる学習を繰り返してきた成果が表れていました。小数の除法の意味理解についての問題は、他の問題に比べると正答率が低かったです。計算については、その意味もしっかりと理解できるように、既習の内容と比較させながら授業で取り扱っていきます。

量と測定

・算数Aでは、角の大きさ、一方の量がそろっているときの混み具合の比べ方の問題に比べて、単位量あたりの大きさの問題は正答率が低くなっていました。全国平均も低く、児童にとって理解が難しい内容です。単位量あたりの大きさにして比較するよさを子どもたちに感じさせ、意味を理解した上で、人口密度などを求めさせるようにしていきます。

図形

・図形に関する問題では、円周率を求める式として正しいものを選ぶ問題の正答率が他の問題と比べて低くなっていました。円周率の意味を理解した上で、円周を求めることができるよう、円周率を求める際の活動を重視していきます。

数量関係

・数量関係はA問題に比べてB問題の正答率が低くなっています。全国平均に比べると6ポイント以上上回っているものの、複数のグラフから必要な情報を読み取るなど、学習した内容を活用する問題にも取り組ませたいと考えています。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 課題解決型の学習を継続するとともに、友達とのかかわりを通して、考えを広げたり、深めたりする姿を目指していきます。
- 計算などの意味を理解できるように、図、式、言葉を使って表現する活動を重視し、自分の考えを筋道立てて説明できるようにしていきます。
- T T、少人数授業を充実させ、子どもの実態に応じた指導に努めます。

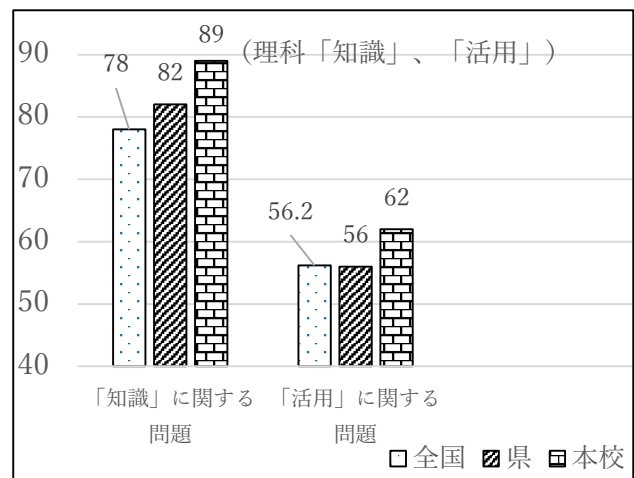
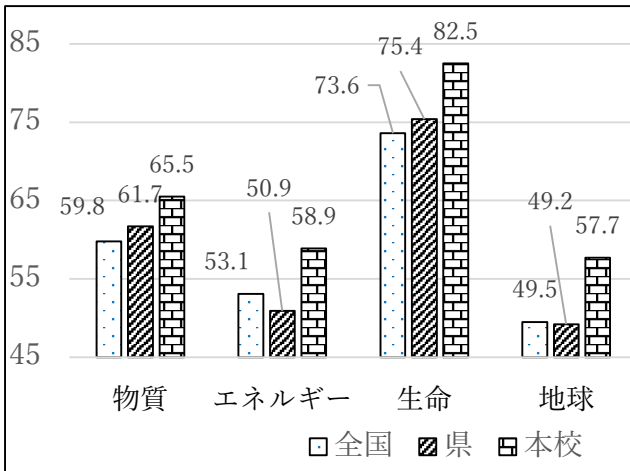
【ご家庭では】

- 算数の学習は、これまで学習したこと新たな学習を積み上げていきます。前学年の教科書もいつでも確かめることができる場所に置いてください。つまづいているところをそのままにしないことが大切です。自主学習などで、復習に力を入れる姿をほめてください。
- 日常生活の中から計算が必要な場面を見つけて計算したり、身の回りにある図形、時間や時刻など、機会をとらえて、算数の時間に学習したことを使ってみるように声掛けをお願いします。

3 理科

(1) 結果

全国及び県正答率との比較



全ての領域で正答率が全国平均を上回っています。本校には前年度まで理科専科教員が配置されていました。理科の学習においても、TTで指導にあたり、算数同様、統一した学習過程で授業を行ってきた成果が表れたと考えています。

(2) 成果と課題

物質

・すべての問題で全国平均を上回っていました。「食塩を水に溶かしたときの全体の重さを選ぶ」、「食塩水を熱したときの食塩の蒸発について、実験を通して導きだす結論を書く」問題は、他の問題に比べて正答率が低くなっていました。実験・観察の結果だけでなく、結果から何が分かるのか、結論の述べ方についても、確かめていきます。

エネルギー

・すべての問題で全国平均を上回っていました。「他者の予想をもとに検流計の針の向きと目盛りを選ぶ」、「太陽の一日の動きに合わせて光電池の適切な位置を選ぶ」問題は、他の問題に比べて正答率が低くなっていました。知識を活用する問題にも取り組ませていくようにします。

生命

・すべての問題で全国平均を上回っていました。「人の腕が曲がる仕組みについて、示された模型を使って説明できる内容を選ぶ」問題は、他の問題に比べて正答率が低くなっていました。「関節」という言葉は、90%以上の児童が答えることができていたため、獲得した知識を活用して説明する活動を重視していきます。

地球

・すべての問題で全国平均を上回っていました。「一度に流す水の量と棒の様子との関係から、大雨が降って流れる水の量が増えたときの地面の削られ方を選び、選んだわけを書く」問題は、すべての問題の中で最も低い正答率でした。実験の結果を基に分析して考察し、その内容を記述するのが難しいことが分かりました。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 理科においても、課題解決型の学習を継続するとともに、デジタル教科書などの有効活用に努めていきます。
- 自主学習における理科に関する取り組みを紹介し、学習したことを自分でまとめたり、興味をもったことを自分で調べたりする態度を育てていきたいと思えます。

【ご家庭では】

- 子どもたちは、理科の学習実験や観察に喜んで取り組んでいます。学校の学習内容を基に、自分で実験や観察をしたいという気持ちをもった際は、アドバイスをお願いします。次の学習への意欲へとつながるはずです。

4 生活習慣や学習習慣に関する調査

(1) 結果

《生活習慣について》

調査項目	本校%	全国平均%
朝食を毎日食べている	95.4	94.5
毎日、同じくらいの時刻に寝ている	76.0	77.0
毎日、同じくらいの時刻に起きている	89.1	88.8
平日、一日30分以上読書をしている。	38.8	41.1

- ・毎日朝食を食べる習慣は、身に付いています。朝食のメニューについてもバランスを考え、一日元気に過ごせるようにしていきたいです。
- ・毎日の起床時刻については、全国平均を上回っています。一方で、毎日の就寝時刻については、全国平均を下回っています。就寝時刻については、前年度の本校の結果と比較しても下がっています。それぞれの生活のリズムもあると思いますが、同じ時刻に気持ちよく起床するために、就寝時刻にも気を付け、睡眠時間をしっかりとるようにしたいです。
- ・一日30分以上読書をしている児童の割合は、全国を下回っています。高学年においても、自分の時間を見つけて読書ができるよう、低学年から読書の習慣を身に付けていきたいです。

《家庭学習の様子》

調査項目	本校%	全国平均%
自分で計画を立てて勉強をしている。(どちらかというとも含む)	75.2	67.6
平日、2時間以上勉強している(学習塾を含む)	41.1	29.3
家で学校の宿題をしている(どちらかというとも含む)	96.9	97.1
予習や復習をしている(どちらかというとも含む)	63.5	62.6

- ・家庭学習の様子については、「自主学习」への取り組みを推進していることも、「自分で計画を立てて勉強をしている。」「平日、2時間以上勉強している」の結果につながってきていると思われます。「家庭学習の手引き」などを活用して、低学年から家庭学習の習慣を身に付けていきたいです。

(2) 改善に向けての取り組み

【学校では】

- 毎日、「音読」「漢字」「算数・国語のプリントやドリル」を基本に宿題を出します。自主学习メニューを紹介して、自主学习(自学)においても学年や児童の興味・関心に応じた内容に取り組むよう促し、学習内容の定着を図ります。
- 「生活がんばり週間」「元気もりもり週間」等、全校の取り組みを通して、生活習慣や読書習慣の向上に努めます。

【ご家庭では】

- 「早寝・早起き・しっかり朝ごはん」の習慣を続けていくよう心掛けてください。一日を元気に過ごし、学習の効果を高めるためにも「朝ごはん」は栄養のバランスを考えたものをしっかり食べて登校させるようにお願いします。
- 学習道具の準備については前日に済ませ、忘れ物等がないように声掛けをお願いします。
- 生活リズムを整え睡眠時間を確保するため、テレビ、ゲーム、携帯、スマートフォン等の使用については、ご家庭でルールを設けてください。